

第30回

長浜企業 景況調査

報告書

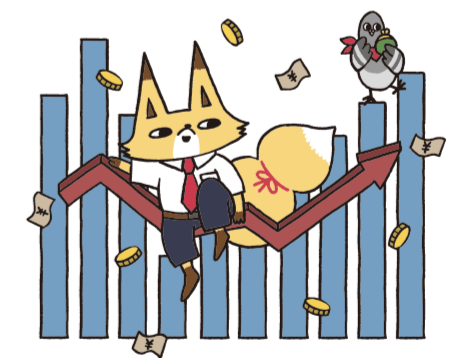


実績 2023年 10月～12月

見通し 2024年 1月～3月

今期のトピックス

- ① 原材料価格上昇の影響について
- ② 賃金引き上げについて



アプリのご紹介

スマホやタブレットでご利用いただける、長浜商工会議所の専用アプリケーション“長浜商工会議所 News”をリリースいたしました！
発信した情報を「いち早く」「多くの方に」見ていただくことを目的に作成したアプリです。
補助金やセミナー・イベント情報等々、情報に更新があるとアプリに通知が届きます☆(要設定なので、ぜひプッシュ通知はONにしてください！)
健康診断や検定試験などのご案内もございますので、代表や担当の方だけでなく、社員皆さままでご利用いただけたらと思います(^^)

■Android・タブレットをご利用の方→
Google Play ストアからダウンロード



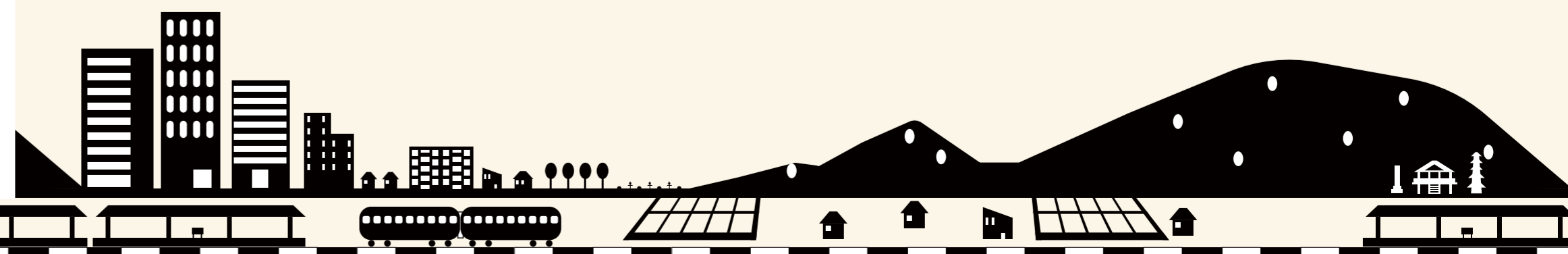
■Iphone・ipad をご利用の方→
App Store からダウンロード



「長浜商工会議所」とご検索ください(^^)!



 **長浜商工会議所**
NAGAHAMA Chamber of Commerce and Industry



コンテンツ

01 調査概要

05 業種ごとの動向
(卸売業・小売業・サービス業・建設業・製造業)

02 今期のトピックス

07 設備投資の有無

03 全体の景況感 (総括)

08 調査項目別 DI の推移

04 調査項目別 DI 値

10 その他業種別自由意見

04 業種別業況 DI の推移 (長期トレンド)

調査概要

長浜企業景況調査について

① 調査対象期間・調査時点

調査対象期間: 令和5年10月~12月
調査時点: 令和6年1月1日

② 調査方法

長浜商工会議所会員企業220社へのFAX方式・メール方式による調査

③ 調査対象企業数

220社 (内訳は右表通り)

④ 報告者

中小企業診断士 川副 郷一郎

	調査対象企業数		有効回答企業数		回収率
	企業数	構成比	企業数	構成比	
卸売業	24	10.9%	19	14.4%	79.2%
小売業	40	18.2%	24	18.2%	60.0%
サービス業	70	31.8%	39	29.5%	55.7%
建設業	32	14.5%	17	12.9%	53.1%
製造業	54	24.5%	33	25.0%	61.1%
合計	220	100.0%	132	100.0%	60.0%

長浜企業景況調査の見方について

DI 指数について

- ① 調査結果を示す指数としてDI指数を採用しています。
- ② 調査項目のうち、「業況(自社)」「売上高」「採算(経常利益)」「資金繰り」「従業員」「販売価格」「仕入価格」「業界動向(同業他社)」「長・短期資金借入難易度」「受注動向(建設業)」「在庫量(製造業)」のDI指数は前年同期と比較しています。
- ③ 「取引の問合せ」と「採算の水準」のDI指数は前年同期比較ではなく調査対象期間の水準を評価した数値です。

DI 指数の見方について

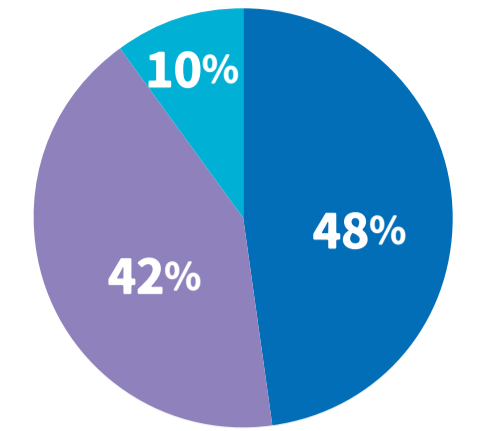
- ① DI指数がプラスであれば好調の企業数が不調の企業数を上回っていることを意味し、プラスの値が大きいほど「好調」の企業割合が多く「景気がよい」と判断されます。
- ② このDI指数を前期、今期、来期とグラフで示すと、その傾向を読み取ることができます。
- ③ 業況DIは経営者の景況感を反映しています。主観的な要素もはありますが、売上高や収益動向で判断される傾向が強いです。
- ④ 資金繰りDIは概ね景気循環と連動していますが、政策の影響が景気の低迷期で認められています。
- ⑤ 小売業は売上高DI、卸売業は資金繰りDIに影響を与えることがあります。
- ⑥ 建設業は季節による影響が業況DIに認められています。これは公共工事との連動のためで1~3月期は総じて低調な傾向となります。

設備投資の見方について

- ① 好景気では「生産力増加」「合理化省力化」投資が増加し、景気の後退期では「設備更新」投資の割合が増える傾向にあります。

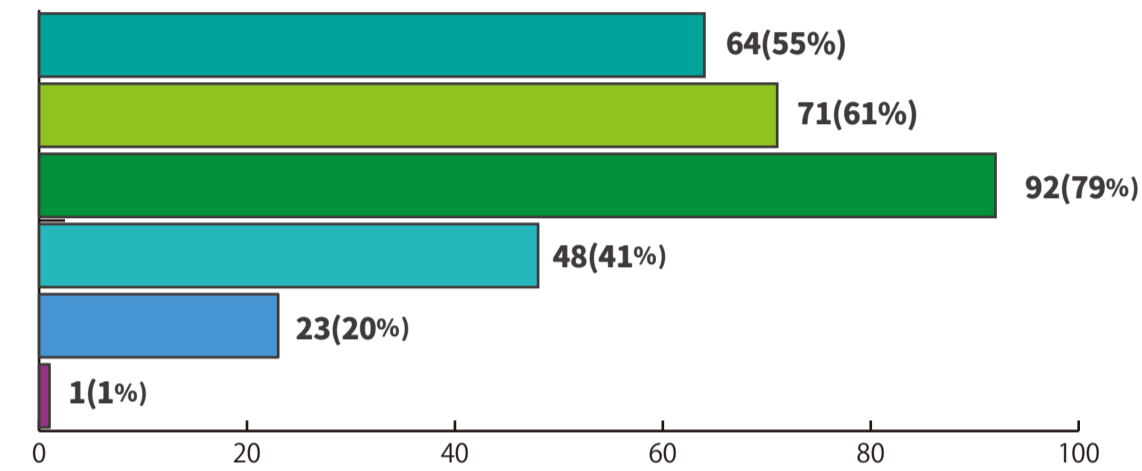
1. 原油等、原材料価格上昇の影響

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計	割合
悪影響がある	9	16	10	10	17	62	48%
少し悪影響がある	9	7	17	7	14	54	42%
悪影響はない	0	1	11	0	1	13	10%
合計	18	24	38	17	32	129	



●…悪影響がある ●…少し悪影響がある ●…悪影響はない

(1-2) 悪影響の内容について (複数回答あり、有効回答社数 116 社、回答数 299)

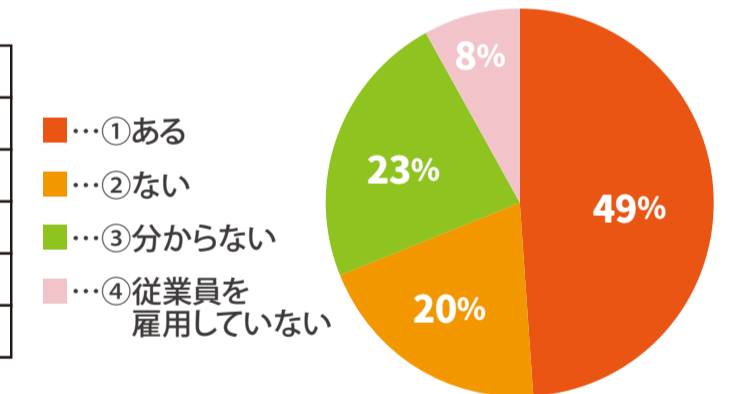


※各項目の()内の割合は、回答者数に占める割合(複数回答のため合計は100%にならない)

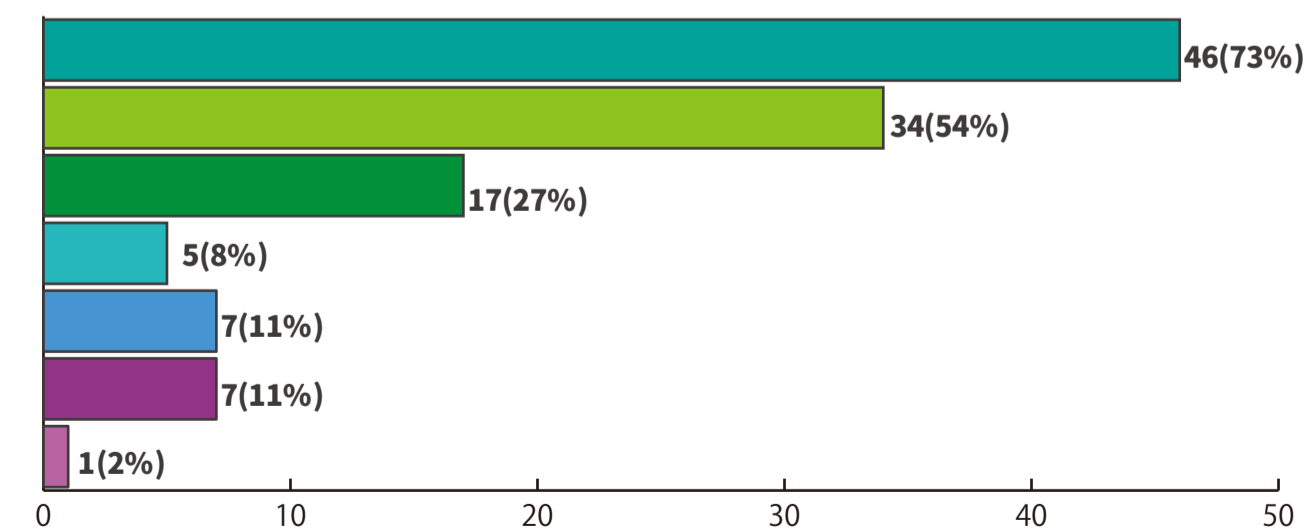
R7-9期と比較すると「悪影響がある」56%→48%、「悪影響はない」5%→10%と若干の改善がみられる。悪影響の内容は、「仕入れ価格の上昇」が最も多く、次いで「②光熱費の上昇」、「③燃料の上昇」の順に多くなった。

2. 賃金引き上げの実績・予定の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
①ある	9	7	16	11	20	63
②ない	4	10	6	3	2	25
③分からない	3	7	9	3	8	30
④従業員を雇用していない	3	0	6	0	1	10
合計	19	24	37	17	31	128



(2-2) 賃金引き上げの要因について (複数回答あり、有効回答社数 63 社、回答数 117)



※各項目の()内の割合は、回答者数に占める割合(複数回答のため合計は100%にならない)

R6年1月1日時点での賃金引き上げの実績・予定は、約半数が「ある」と回答。その要因は、「①人材確保・定着」が最も多く、次いで「②物価上昇」、「③最低賃金の改定」となった。昨年R4年1月1日時点の同調査と比較すると、「②物価上昇」が44%→54%となり、最も変化が大きい。

全体の景況感（総括）

業況DIは2期連続低下、5期ぶりにマイナス圏に

全体の業況DIは、前期（2023年7-9月期）のもちあい（0.0）から今期は▲2.3と2期連続で低下し5期ぶりにマイナス圏となりました。売上高DIが9.2と前期比3.1ポイント上昇しましたが、採算（経常利益）DIが▲10.7と3期連続で低下したためと考えられます。これは材料費、外注費、人件費等の上昇分の価格転嫁が難しいこと（タイミングの見極めや実行までに時間がかかる等）が要因とみられます。来期（2024年1-3月期）の業況DIは▲15.4で更に低下する見通しとなっています。

全体の従業員DIは▲21.5で、不足感がやや緩和しました。建設業、卸売業、サービス業で緩和しましたが、小売業、製造業では強まりました。

本調査の経済・経営状況のコメント欄には、各種イベントや宴会需要が回復し消費が活性化してきた一方、単価アップによる売上増で収益に結びつかないといった意見をはじめダイハツ操業停止後の見通しがつかない、労働力不足、人材不足等各種のコストアップなど経営上の不安材料について多くの声が寄せられました。

一方、同時に実施した「設備投資の計画状況」調査によると、設備投資計画が「ある」と答えた企業の割合はやや減少し25.2%でした。投資内容では、景気回復期に強まる「生産力増加」投資と「合理化・省力化」投資の合計が全体で27.3%と大幅に減少（▲28.6ポイント）しました。

売上高DIは製造業以外上昇、採算DIはすべての業種でマイナス圏に

業種別の業況DIでは、卸売業のみ上昇、サービス業は横ばい、建設業、小売業、製造業は低下しました。売上高DIは製造業のみ低下しましたが他の4業種では上昇、販売価格DIはすべての業種で低下し、採算DIは卸売業、建設業で上昇したもののすべての業種でマイナス圏となりました。

卸売業では、売上高DI、採算DI、採算の水準DIが全て上昇しましたがマイナス圏を脱することはできませんでした。小売業は、売上高DIおよび採算の水準DIは上昇しましたが、採算DIはやや低下しました。サービス業は、売上高DIが上昇しましたが採算DIが低下しました。採算の水準DIはコロナ禍後最も高くなりました。建設業は、売上高DIは横ばいでしたが採算DIが上昇しました。採算の水準DIは低下しました。製造業は売上高DI、採算DIともに低下しましたが、採算の水準DIは上昇しました。在庫量DI並びに資金繰りDIが大幅に低下しました。

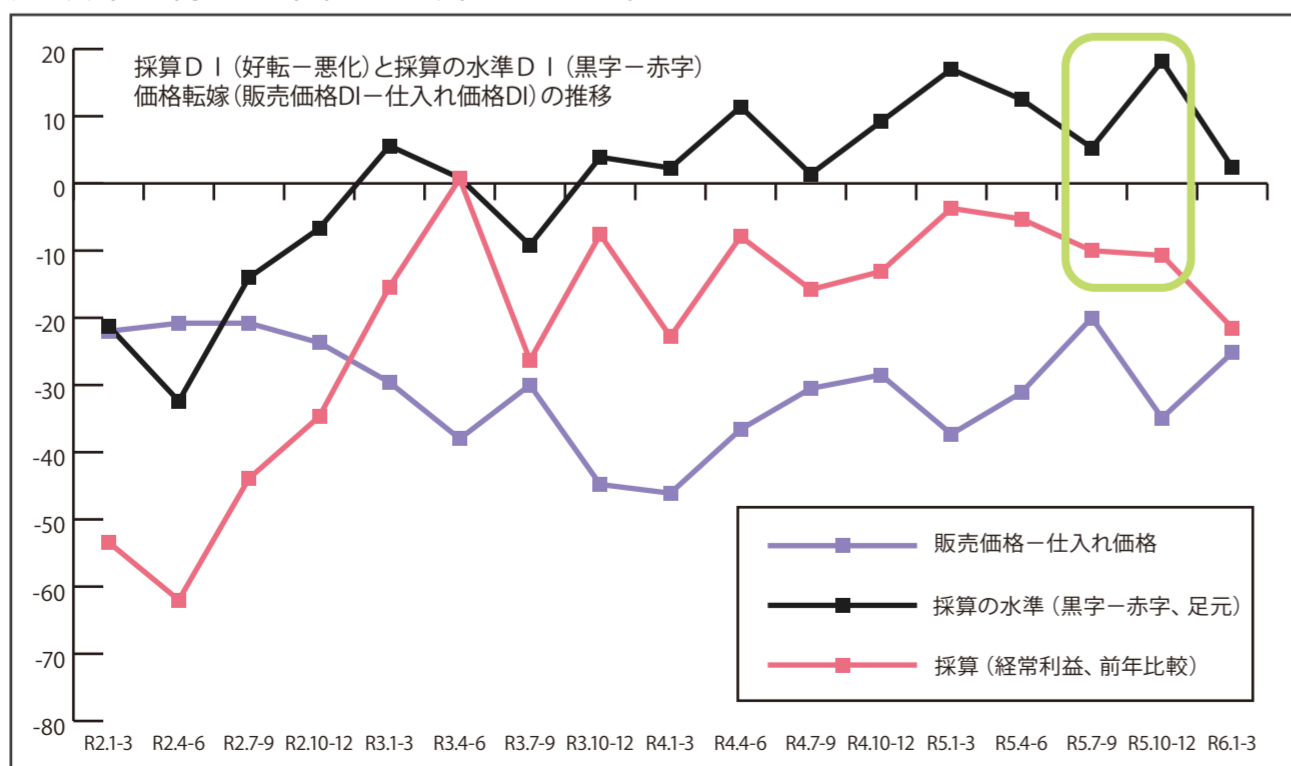
来期の業況DIは、小売業はほぼ横ばいですが他の4業種はさらに低下する見通しです。

採算の水準DI（黒字企業の割合）がコロナ禍後最も高くなるも採算DIはやや低下

足元の収益状況を表す採算の水準DI（黒字企業割合-赤字企業割合）は前期比12.9ポイント上昇し18.2となり、コロナ禍後最も高くなりました。サービス業が51.3で最も高く次いで製造業（18.2）、小売業（0.0）、卸売業（▲5.3）、建設業（▲5.9）の順でした。前期と比べ建設業を除く4業種で上昇しました。

一方、採算DI（前年比較）は前述の通りやや低下し、過去連動もしくは遅行して連動してきた採算の水準DIとは逆方向になりました（グラフで参照）。

前年比較の採算DIにおいて、「販売価格DI-仕入れ価格DI」（乖離幅）で見た価格転嫁が今期は腰折れ状態になったことや、国内企業物価指数の前年比伸びが鈍化しているものの高止まりしていることが影響していると思われます。

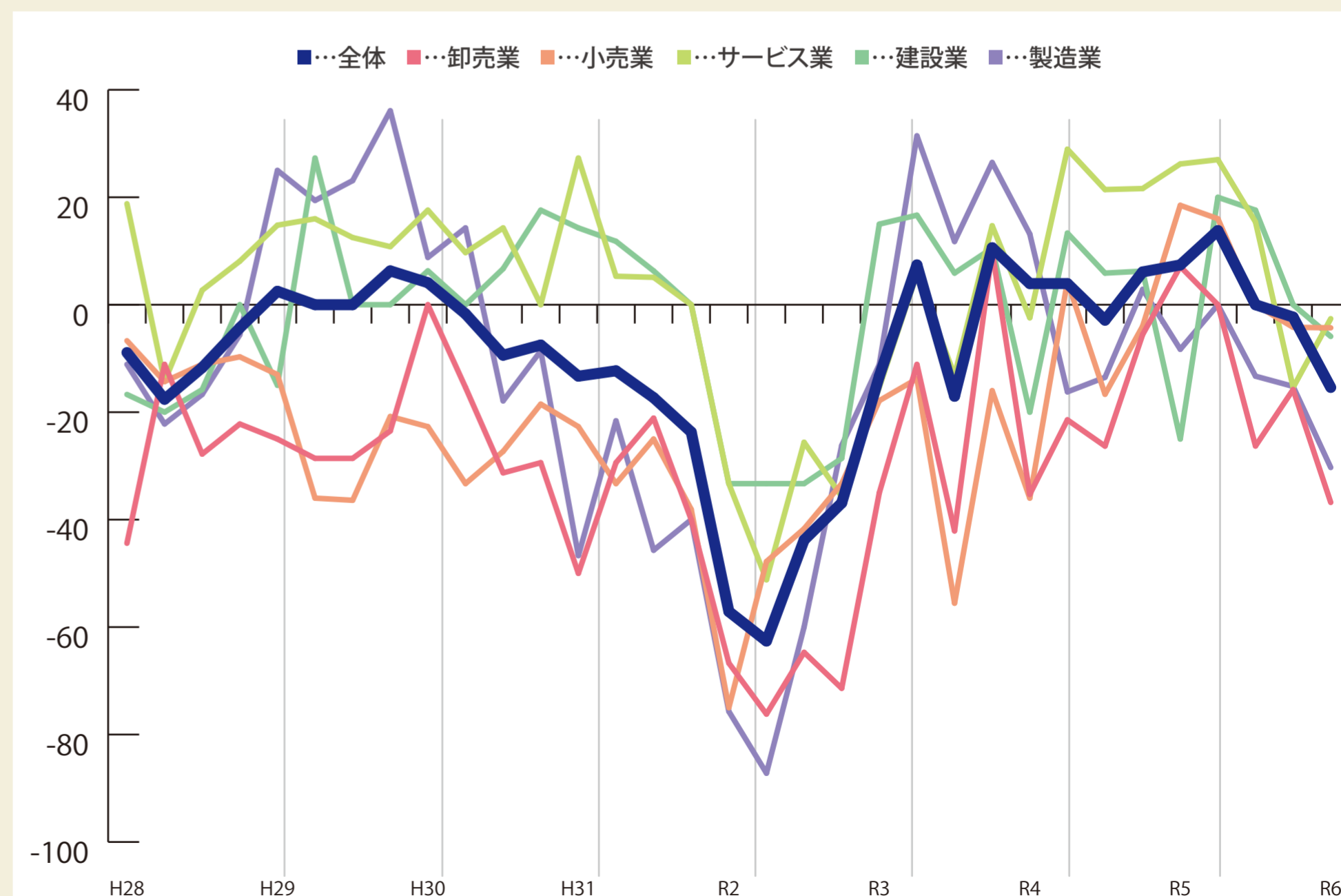


（中小企業診断士 川副 郷一郎）

調査項目別 DI 値

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
業況	6.1	7.4	13.8	0.0	▲ 2.3	▲ 15.4
売上高	10.0	10.4	16.0	6.1	9.2	▲ 13.2
採算(経常利益)	▲ 13.1	▲ 3.7	▲ 5.3	▲ 10.0	▲ 10.7	▲ 21.5
資金繰り	▲ 8.6	▲ 3.7	0.8	▲ 2.3	▲ 10.8	▲ 15.6
従業員	▲ 29.7	▲ 26.9	▲ 28.8	▲ 23.7	▲ 21.5	▲ 22.5
取引の問い合わせ	0.8	4.5	▲ 0.8	▲ 10.1	▲ 5.4	▲ 20.3
採算の水準	9.2	17.0	12.5	5.3	18.2	2.4
販売価格	48.5	43.0	43.1	51.9	38.5	37.0
仕入れ価格	77.0	80.3	74.2	71.9	73.4	62.2
業界動向	▲ 12.0	▲ 7.0	▲ 8.1	▲ 20.2	▲ 20.3	▲ 25.8
借入難易度(長期)	3.2	4.7	0.8	▲ 3.2	▲ 1.6	▲ 3.2
借入難易度(短期)	4.0	9.3	1.6	4.1	4.0	1.6
受注動向(建設業)	▲ 6.7	▲ 33.3	5.3	6.3	▲ 12.5	▲ 21.1
在庫量(製造業)	23.3	13.3	▲ 3.8	19.2	▲ 3.6	0.0

業種別業況 DI の推移（長期トレンド）



※R6.1-3のDIは見通し

業種ごとの動向（卸売業・小売業・サービス業・建設業）

業況の動き アイコンの説明

前期の業況DI値から
+1以上

前期の業況DI値から
+1未満▲1超

前期の業況DI値から
▲1以下

※全国の業況DI...
「中小企業業況調査」
(中小企業庁)結果より

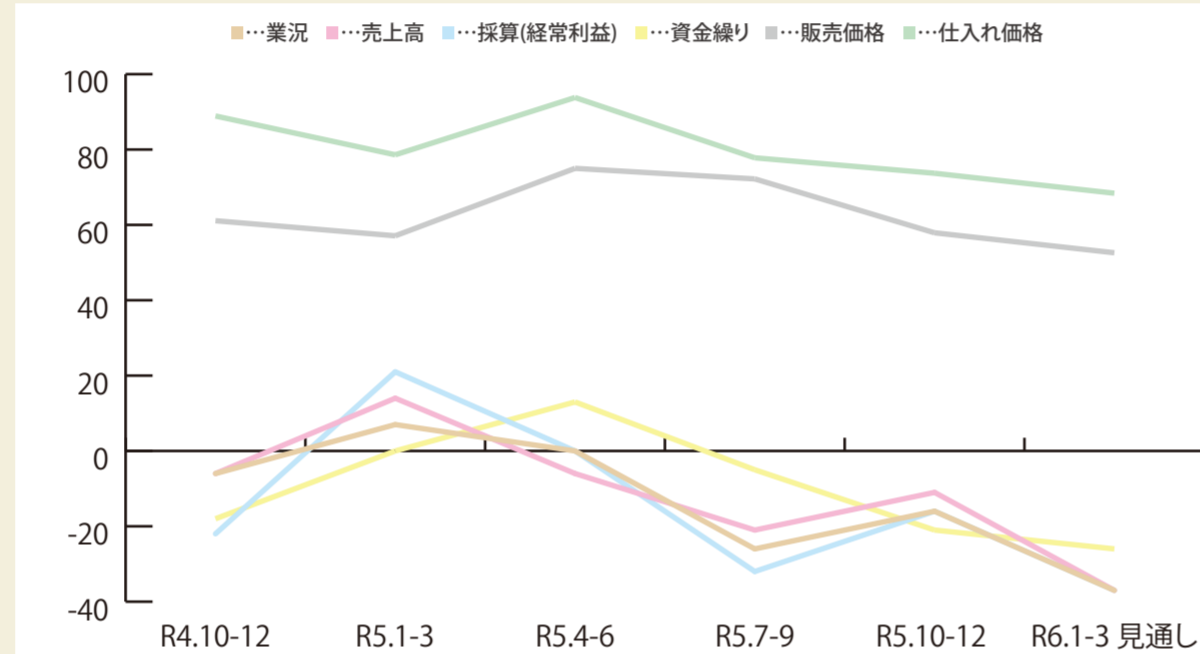
卸売業

業況の動き(3ヶ月前比較)

全国 業況DI ▲7.3→▲16.7

長浜 業況DI ▲26.3→▲15.8

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
業況	▲5.6	7.1	0.0	▲26.3	▲15.8	▲36.8
売上高	▲5.6	14.3	▲6.3	▲21.1	▲10.5	▲36.8
採算(経常利益)	▲22.2	21.4	0.0	▲31.6	▲15.8	▲36.8
資金繰り	▲17.6	0.0	12.5	▲5.3	▲21.1	▲26.3
販売価格	61.1	57.1	75.0	72.2	57.9	52.6
仕入れ価格	88.9	78.6	93.8	77.8	73.7	68.4



事業者の声

好転

- ・好転の意見なし。

悪化

- ・仕入業者の実質倒産により、仕入業者の変更、仕入価格の上昇。
- ・低額品の物販が低調。

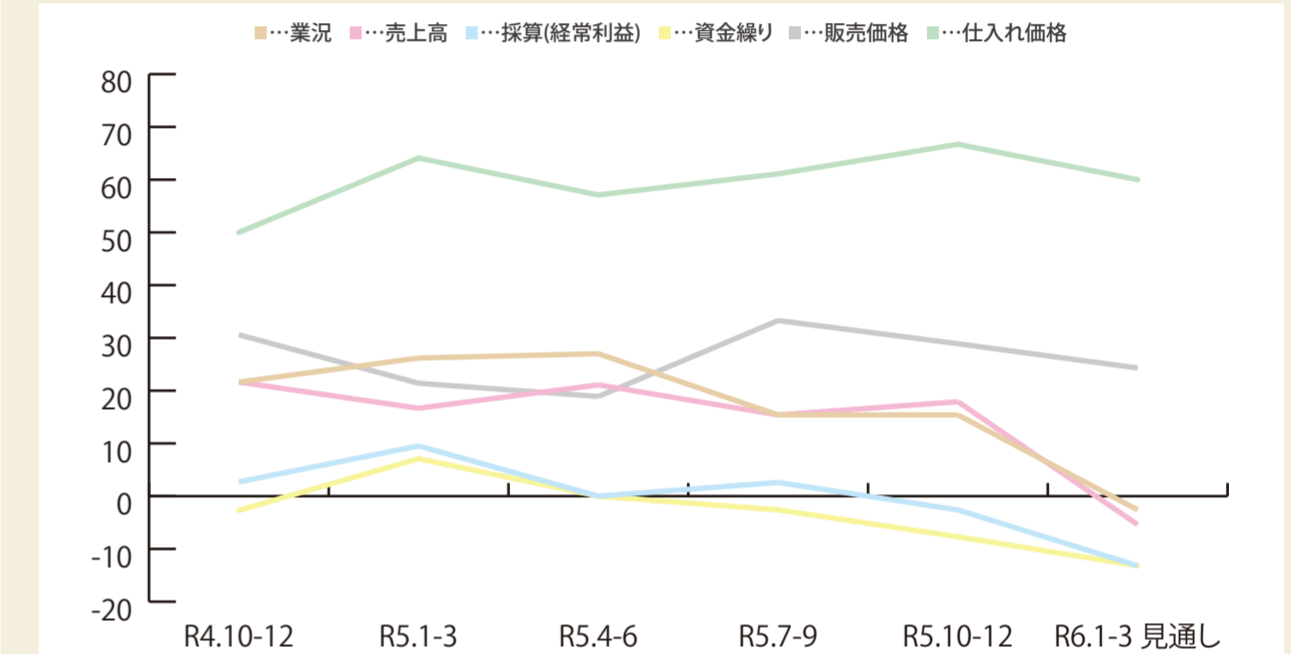
サービス業

業況の動き(3ヶ月前比較)

全国 業況DI ▲6.3→▲17.8

長浜 業況DI 15.4→15.4

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
業況	21.6	26.2	27.0	15.4	15.4	▲2.6
売上高	21.6	16.7	21.1	15.4	17.9	▲5.4
採算(経常利益)	2.7	9.5	0.0	2.6	▲2.6	▲13.2
資金繰り	▲2.7	7.1	0.0	▲2.6	▲7.7	▲13.2
販売価格	30.6	21.4	18.9	33.3	28.9	24.3
仕入れ価格	50.0	64.1	57.1	61.1	66.7	60.0



事業者の声

好転

- ・客単価がアップした。
- ・例年年末はとても忙しく、先月までの落ち込みを挽回することができた。

悪化

- ・得意先の注文激減。
- ・消費の低迷。
- ・社内の高齢化が進み、新しい人材を募集するが、応募がなく苦慮している。

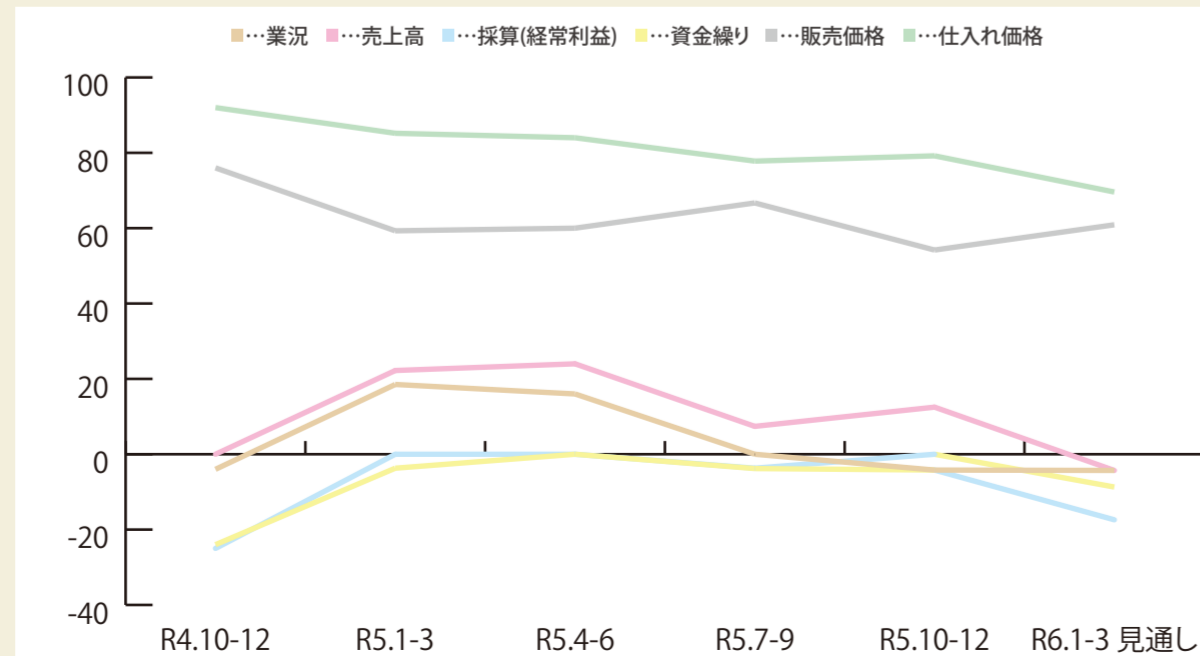
小売業

業況の動き(3ヶ月前比較)

全国 業況DI ▲21.7→▲27.6

長浜 業況DI 0.0→▲4.2

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
業況	▲4.0	18.5	16.0	0.0	▲4.2	▲4.3
売上高	0.0	22.2	24.0	7.4	12.5	▲4.3
採算(経常利益)	▲24.0	▲3.7	0.0	▲3.8	▲4.2	▲17.4
資金繰り	▲25.0	0.0	0.0	▲3.7	0.0	▲8.7
販売価格	76.0	59.3	60.0	66.7	54.2	60.9
仕入れ価格	92.0	85.2	84.0	77.8	79.2	69.6



事業者の声

好転

- ・12月の忘年会等に伴う需要は好転した。
- ・コロナ禍のように来店が際立って少ないと感じることはない。

悪化

- ・仕入れ価格、燃料、運搬費の上昇。
- ・2023年10月の商品価格値上げに伴い10月、11月は不調。

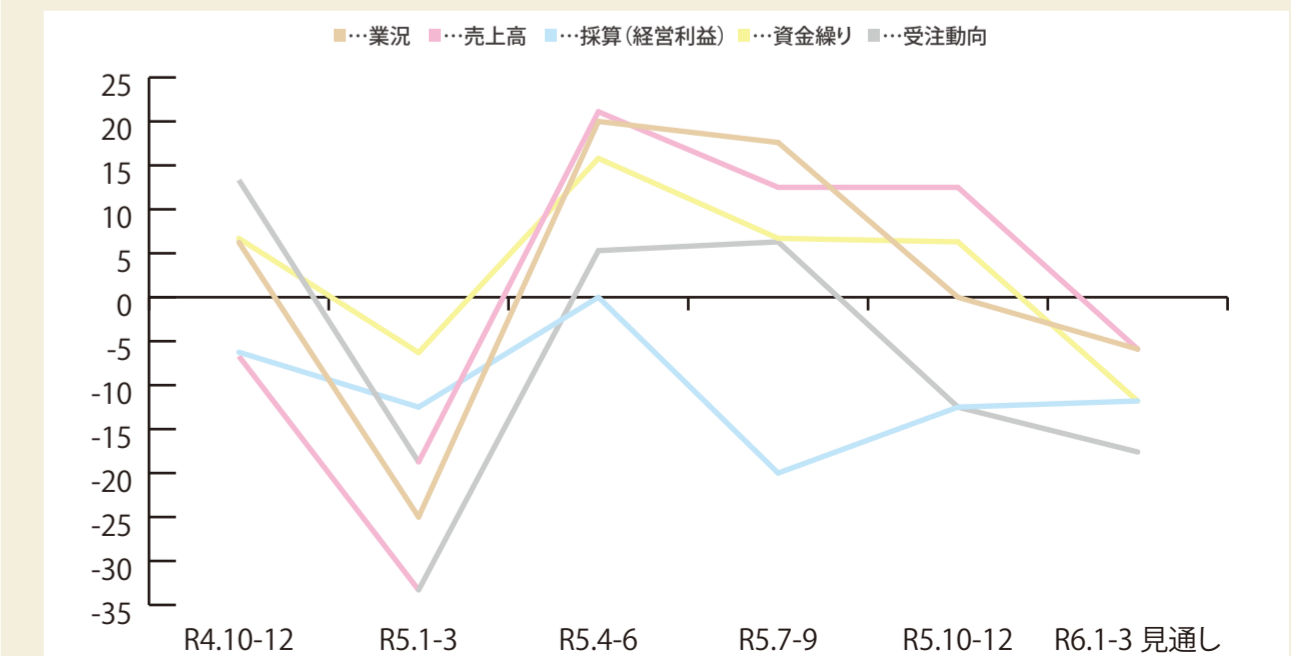
建設業

業況の動き(3ヶ月前比較)

全国 業況DI ▲10.6→▲12.8

長浜 業況DI 17.6→0.0

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
業況	6.3	▲25.0	20.0	17.6	0.0	▲5.9
売上高	13.3	▲18.8	21.1	12.5	12.5	▲5.9
採算(経常利益)	▲6.3	▲12.5	0.0	▲20.0	▲12.5	▲11.8
資金繰り	6.7	▲6.3	15.8	6.7	6.3	▲11.8
受注動向	▲6.7	▲33.3	5.3	6.3	▲12.5	▲17.6



事業者の声

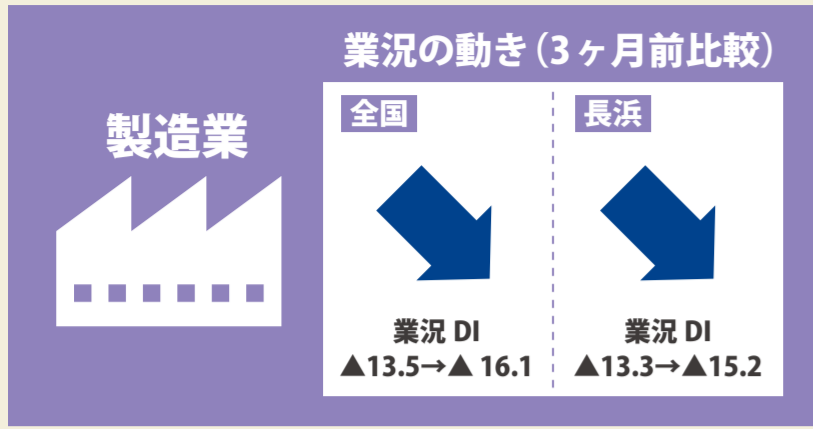
好転

- ・企業は計画的な設備投資を行っており、引き合いもある。

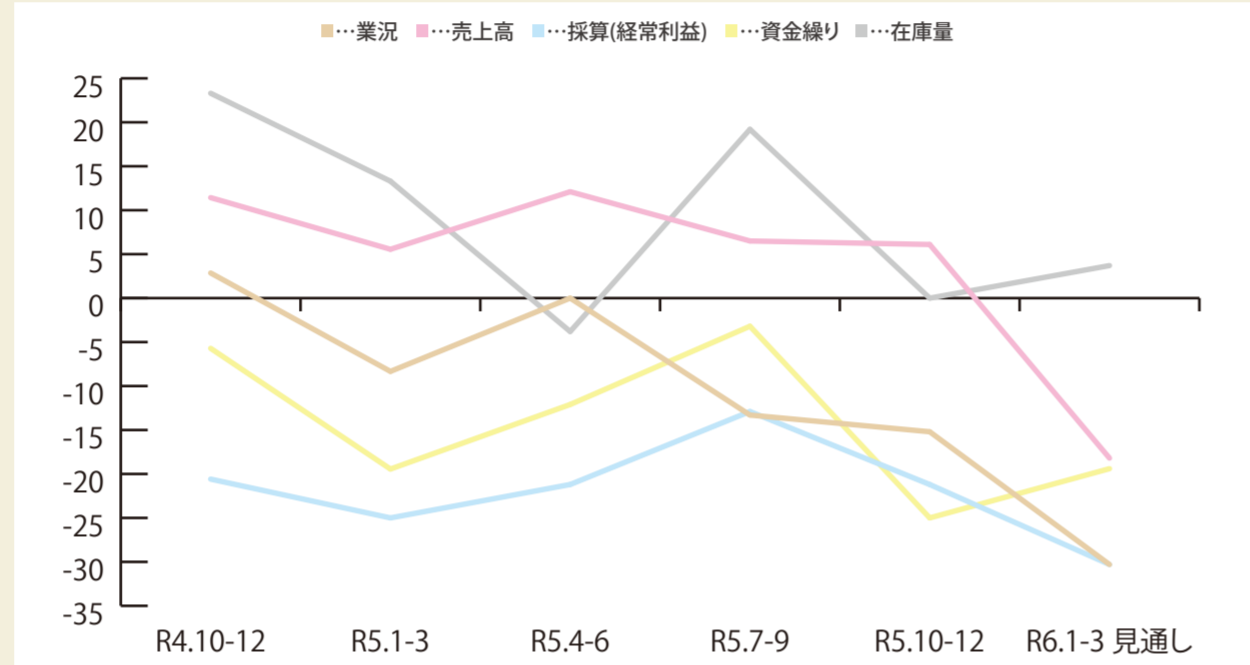
悪化

- ・住宅は建設資材の高騰による顧客離れが深刻。
- ・原材料費が高騰し、価格転嫁が間にあわない。
- ・賃金引上げに対してそれに見合うだけの利益が上がらない。

業種ごとの動向（製造業）



	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
業況	2.9	▲8.3	0.0	▲13.3	▲15.2	▲30.3
売上高	11.4	5.6	12.1	6.5	6.1	▲18.2
採算(経常利益)	▲20.6	▲25.0	▲21.2	▲12.9	▲21.2	▲30.3
資金繰り	▲5.7	▲19.4	▲12.1	▲3.2	▲25.0	▲19.4
在庫量	23.3	13.3	▲3.8	19.2	0.0	3.7



事業者の声

好転

- 価格転嫁が徐々に浸透して増収要因にはなっている。
- 原材料価格の値上げが無いわけではないが、落ち着いてきた。

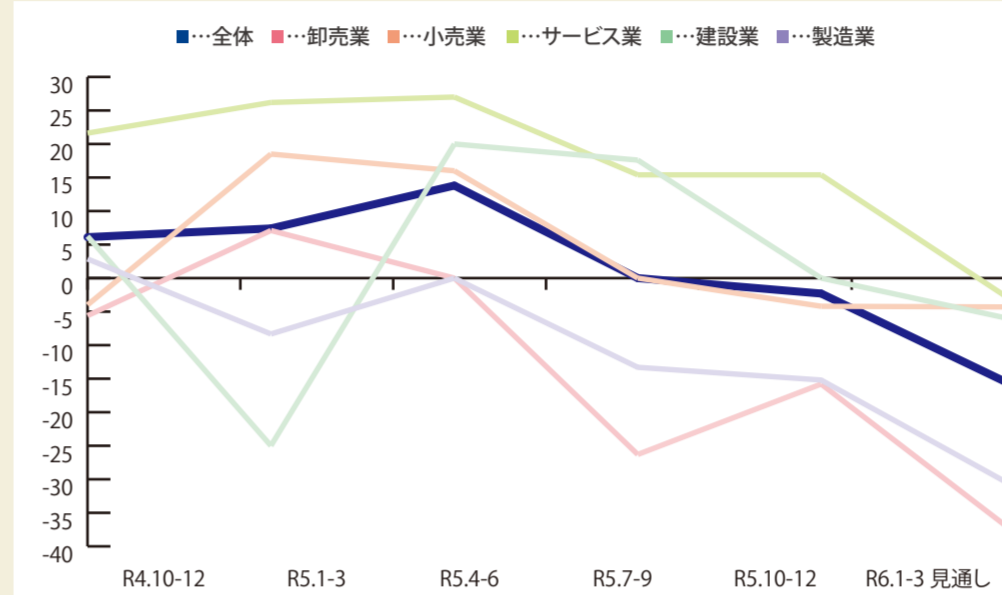
悪化

- 中国経済減速の影響を受けている。
- 半導体・景気の落ち込み。
- 原材料が上がったが、販売価格にすぐに反映されていない。

調査項目別 DI の推移①

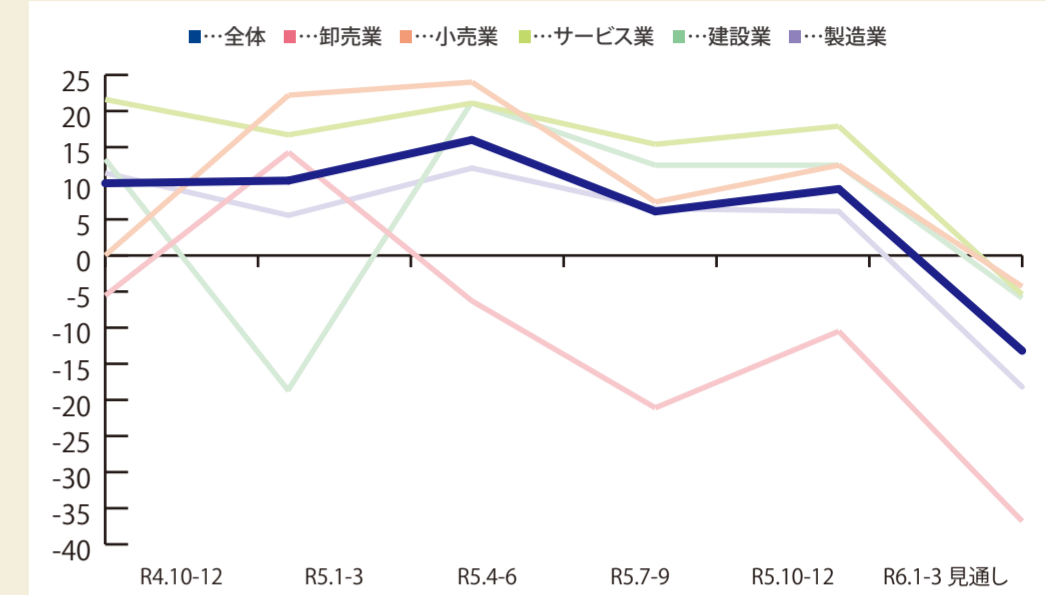
業況（好転-悪化）

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
全体	6.1	7.4	13.8	0.0	▲2.3	▲15.4
卸売業	▲5.6	7.1	0.0	▲26.3	▲15.8	▲36.8
小売業	▲4.0	18.5	16.0	0.0	▲4.2	▲4.3
サービス業	21.6	26.2	27.0	15.4	15.4	▲2.6
建設業	6.3	▲25.0	20.0	17.6	0.0	▲5.9
製造業	2.9	▲8.3	0.0	▲13.3	▲15.2	▲30.3



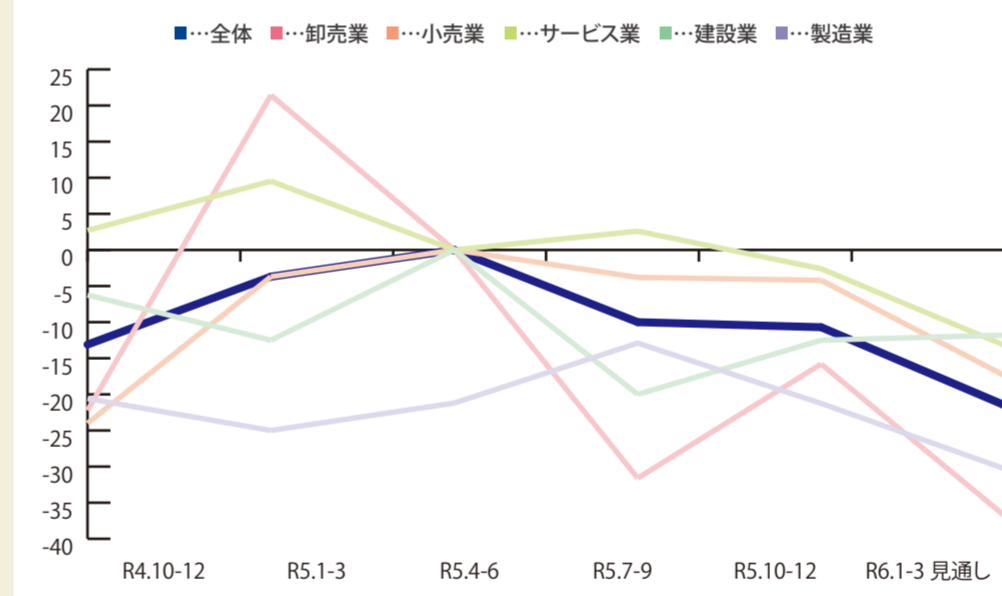
売上高（増加-減少）

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
全体	10.0	10.4	16.0	6.1	9.2	▲13.2
卸売業	▲5.6	14.3	▲6.3	▲21.1	▲10.5	▲36.8
小売業	0.0	22.2	24.0	7.4	12.5	▲4.3
サービス業	21.6	16.7	21.1	15.4	17.9	▲5.4
建設業	13.3	▲18.8	21.1	12.5	12.5	▲5.9
製造業	11.4	5.6	12.1	6.5	6.1	▲18.2



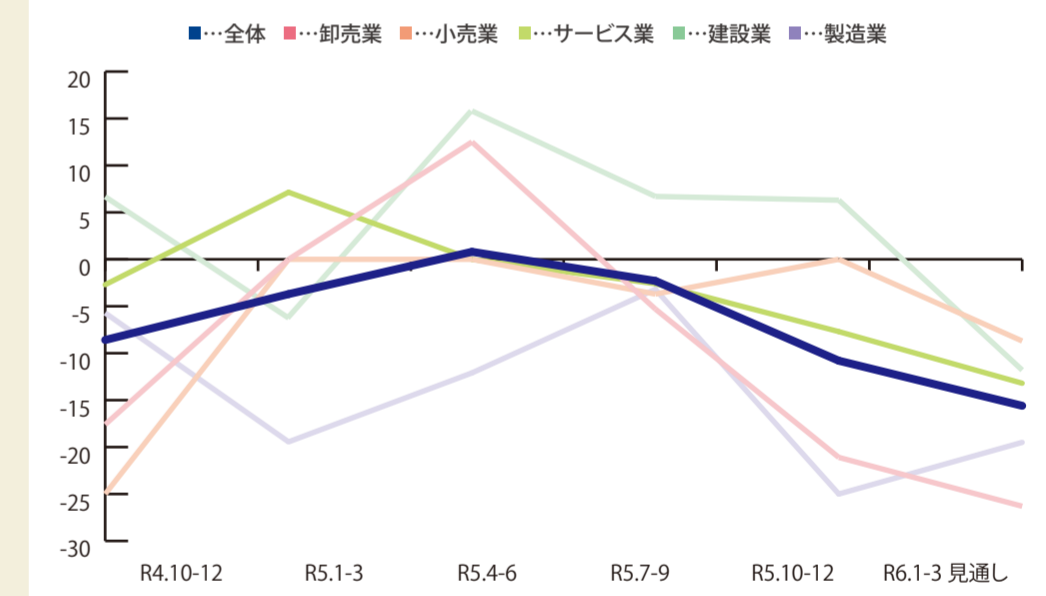
採算（好転-悪化）

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
全体	▲13.1	▲3.7	0.0	▲10.0	▲10.7	▲21.5
卸売業	▲22.2	21.4	0.0	▲31.6	▲15.8	▲36.8
小売業	▲24.0	▲3.7	0.0	▲3.8	▲4.2	▲17.4
サービス業	2.7	9.5	0.0	2.6	▲2.6	▲13.2
建設業	▲6.3	▲12.5	0.0	▲20.0	▲12.5	▲11.8
製造業	▲20.6	▲25.0	▲21.2	▲12.9	▲21.2	▲30.3



資金繰り（好転-悪化）

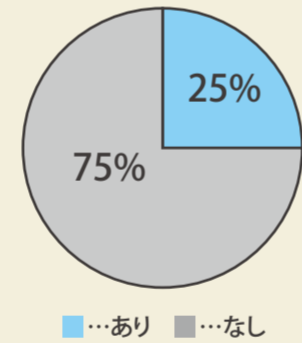
	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
全体	▲8.6	▲3.7	0.8	▲2.3	▲10.8	▲15.6
卸売業	▲17.6	0.0	12.5	▲5.3	▲21.1	▲26.3
小売業	▲25.0	0.0	0.0	▲3.7	0.0	▲8.7
サービス業	▲2.7	7.1	0.0	▲2.6	▲7.7	▲13.2
建設業	6.7	▲6.3	15.8	6.7	6.3	▲11.8
製造業	▲5.7	▲19.4	▲12.1	▲3.2	▲25.0	▲19.4



設備投資の有無

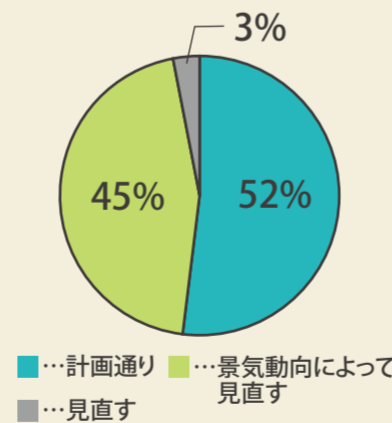
①設備投資の有無

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
あり	5	4	9	6	9	33
なし	14	19	30	11	24	98



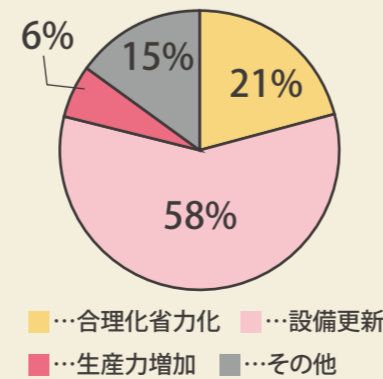
②①で「あり」と答えた場合、計画の実行について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
計画通り	3	2	3	5	4	17
景気動向によって見直す	2	2	5	1	5	15
見直す	0	0	1	0	0	1



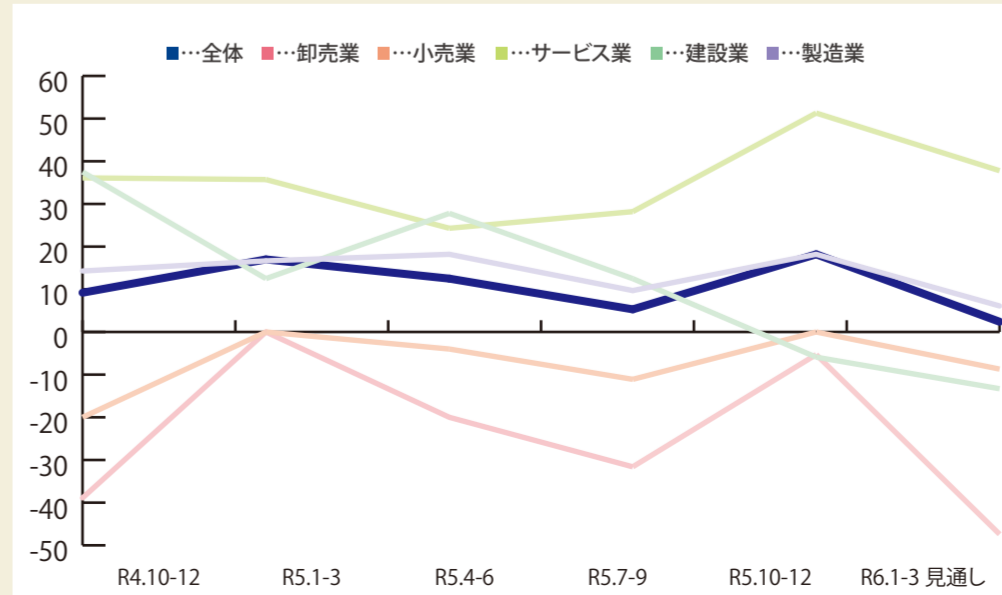
③①で「あり」と答えた場合、計画の内容について

	卸売業	小売業	サービス業	建設業	製造業	合計
合理化省力化	1	0	2	2	2	7
設備更新	3	2	5	3	6	19
生産力増加	0	1	0	0	1	2
その他	1	1	2	1	0	5



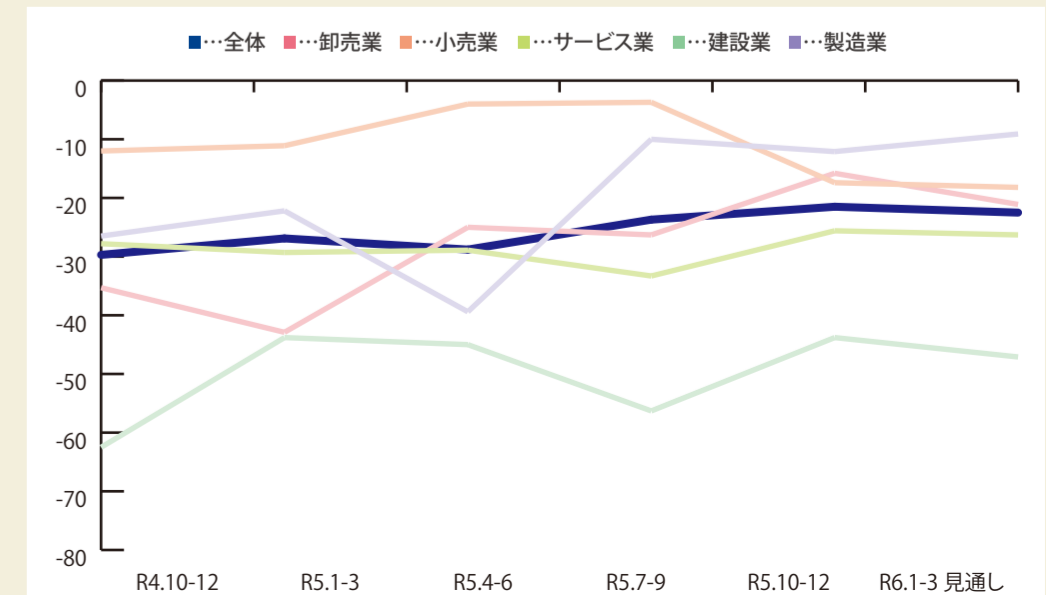
採算の水準（黒字-赤字）

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
全体	9.2	17.0	12.5	5.3	18.2	2.4
卸売業	▲38.9	0.0	▲20.0	▲31.6	▲5.3	▲47.4
小売業	▲20.0	0.0	▲4.0	▲11.1	0.0	▲8.7
サービス業	36.1	35.7	24.3	28.2	51.3	37.8
建設業	37.5	12.5	27.8	12.5	▲5.9	▲13.3
製造業	14.3	16.7	18.2	9.7	18.2	6.1



従業員（過剰-不足）

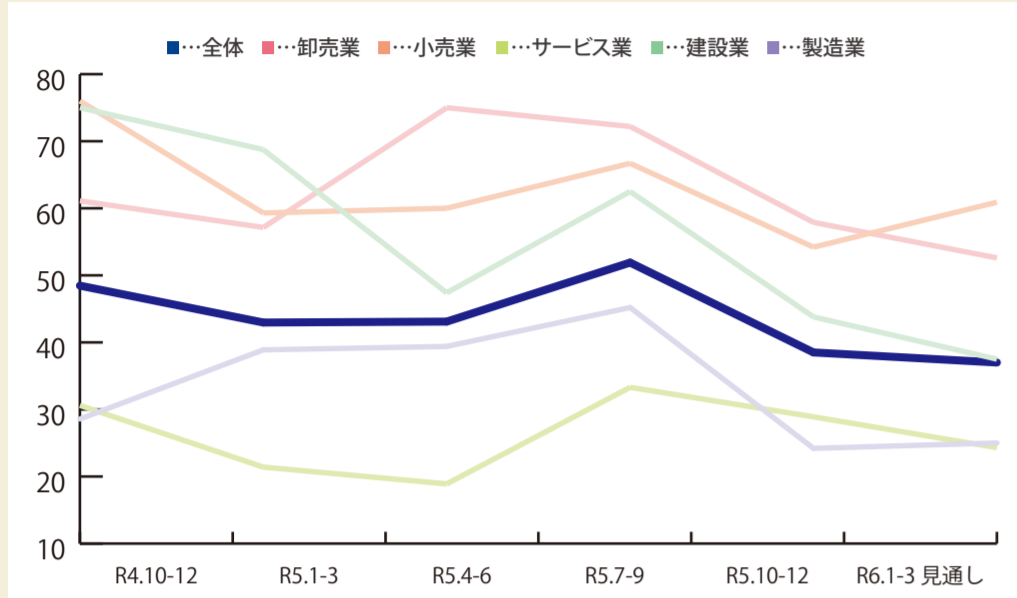
	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
全体	▲29.7	▲26.9	▲28.8	▲23.7	▲21.5	▲22.5
卸売業	▲35.3	▲42.9	▲25	▲26.3	▲15.8	▲21.1
小売業	▲12	▲11.1	▲4	▲3.7	▲17.4	▲18.2
サービス業	▲27.8	▲29.3	▲28.9	▲33.3	▲25.6	▲26.3
建設業	▲62.5	▲43.8	▲45	▲56.3	▲43.8	▲47.1
製造業	▲26.5	▲22.2	▲39.4	▲10	▲12.1	▲9.1



調査項目別 DI の推移②

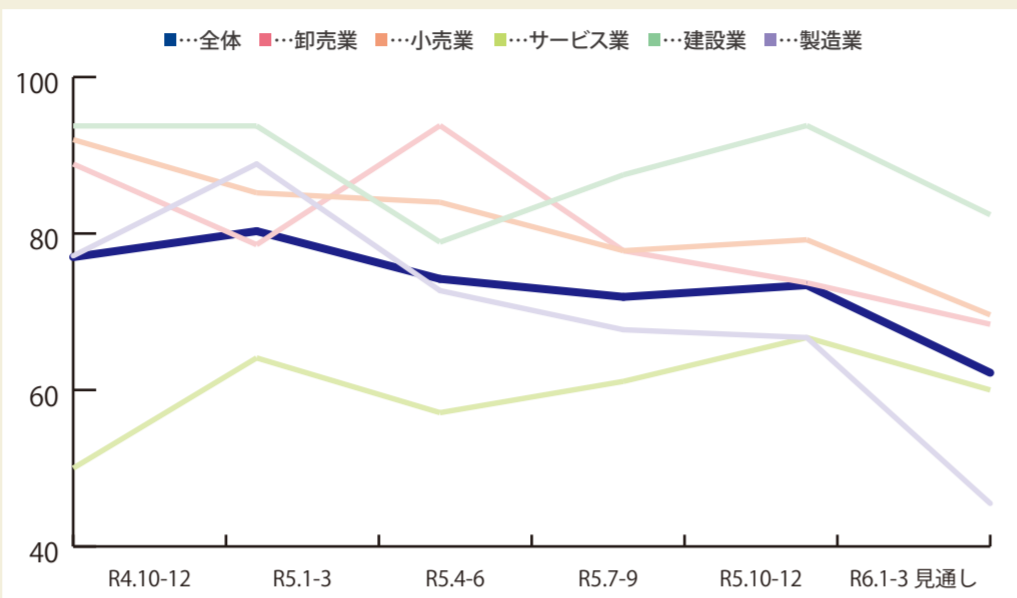
販売価格(上昇-下落)

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
全体	48.5	43.0	43.1	51.9	38.5	37.0
卸売業	61.1	57.1	75.0	72.2	57.9	52.6
小売業	76.0	59.3	60.0	66.7	54.2	60.9
サービス業	30.6	21.4	18.9	33.3	28.9	24.3
建設業	75.0	68.8	47.4	62.5	43.8	37.5
製造業	28.6	38.9	39.4	45.2	24.2	25.0



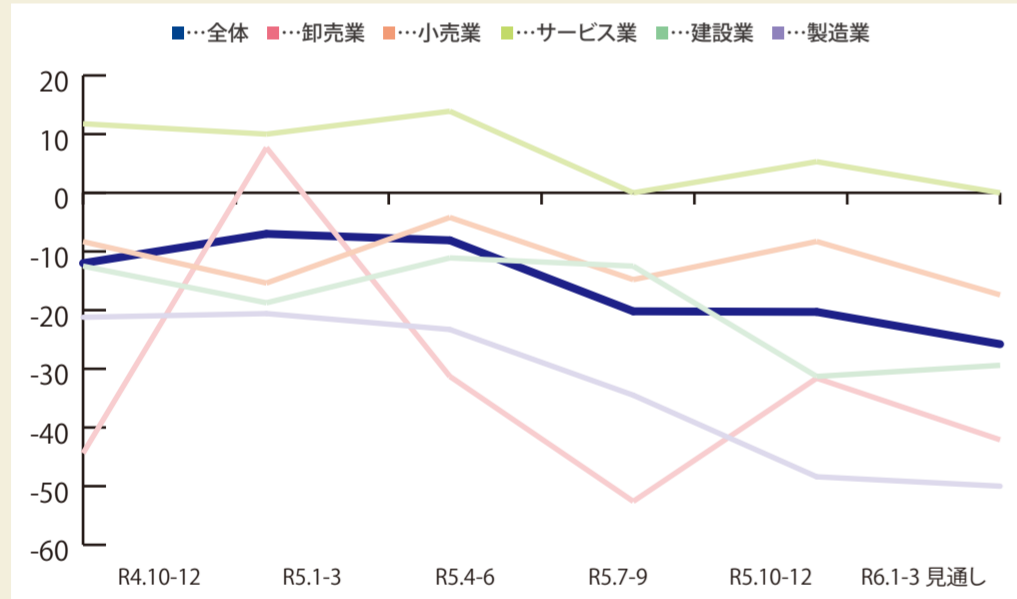
仕入価格(上昇-下落)

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
全体	77.0	80.3	74.2	71.9	73.4	62.2
卸売業	88.9	78.6	93.8	77.8	73.7	68.4
小売業	92.0	85.2	84.0	77.8	79.2	69.6
サービス業	50.0	64.1	57.1	61.1	66.7	60.0
建設業	93.8	93.8	78.9	87.5	93.8	82.4
製造業	77.1	88.9	72.7	67.7	66.7	45.5



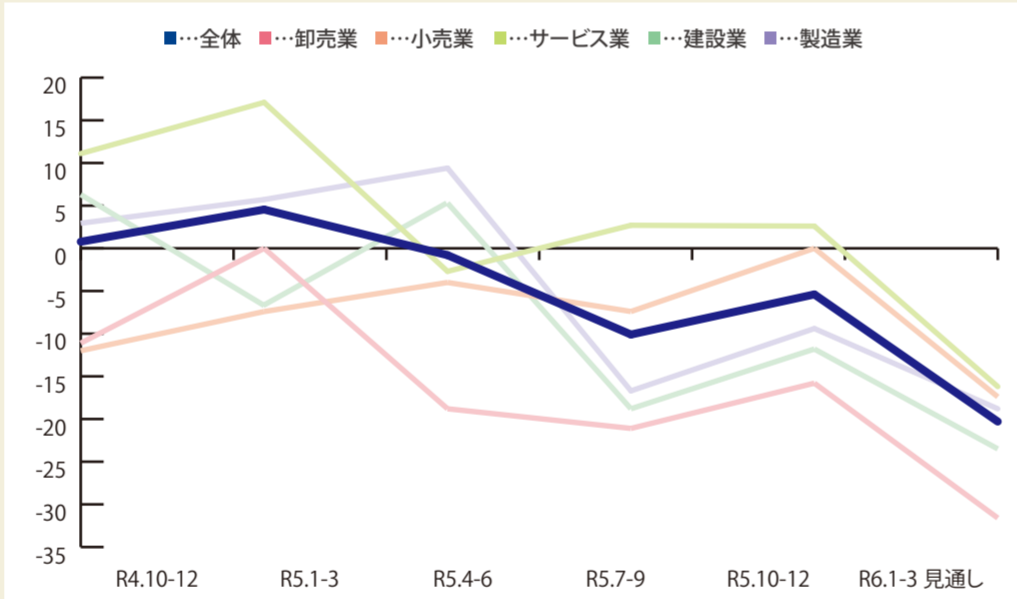
業界動向(好転-悪化)

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
全体	▲12.0	▲7.0	▲8.1	▲20.2	▲20.3	▲25.8
卸売業	▲44.4	7.7	▲31.3	▲52.6	▲31.6	▲42.1
小売業	▲8.3	▲15.4	▲4.2	▲14.8	▲8.3	▲17.4
サービス業	11.8	10.0	13.9	0.0	5.3	0.0
建設業	▲12.5	▲18.8	▲11.1	▲12.5	▲31.3	▲29.4
製造業	▲21.2	▲20.6	▲23.3	▲34.5	▲48.4	▲50.0



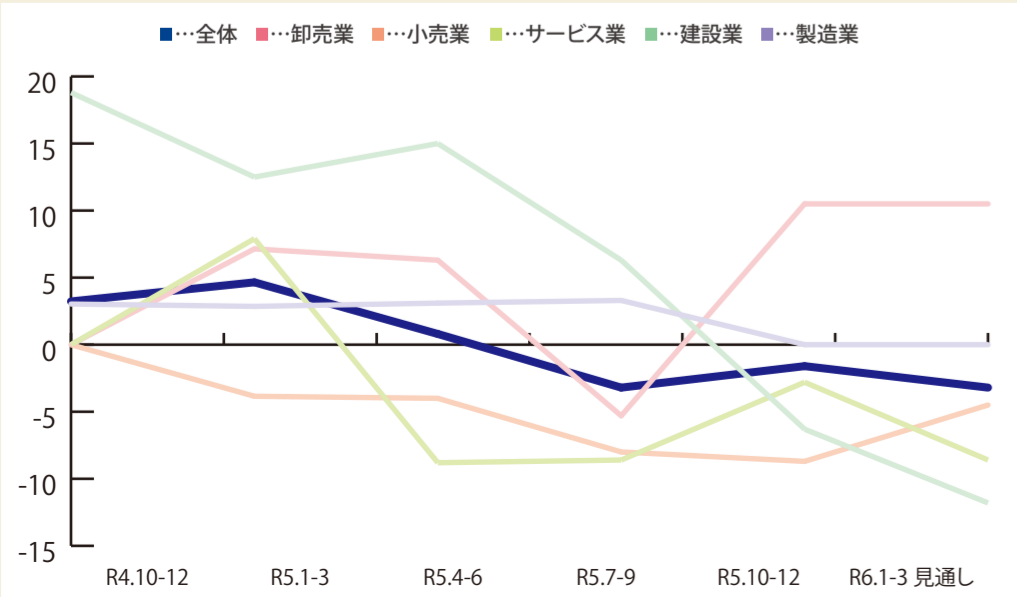
取引問合せ(活発-低調)

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
全体	0.8	4.5	▲0.8	▲10.1	▲5.4	▲20.3
卸売業	▲11.1	0.0	▲18.8	▲21.1	▲15.8	▲31.6
小売業	▲12.0	▲7.4	▲4.0	▲7.4	0.0	▲17.4
サービス業	11.1	17.1	▲2.7	2.7	2.6	▲16.2
建設業	6.3	▲6.7	5.3	▲18.8	▲11.8	▲23.5
製造業	2.9	5.7	9.4	▲16.7	▲9.4	▲18.8



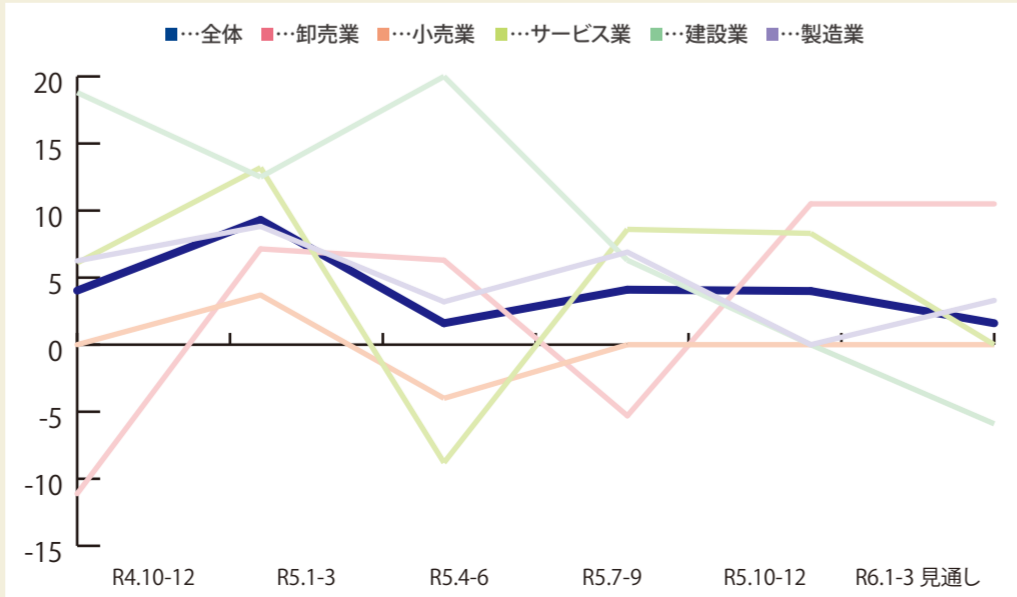
長期資金借入難度(容易-困難)

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
全体	3.2	4.7	0.8	▲3.2	▲1.6	▲3.2
卸売業	0.0	7.1	6.3	▲5.3	10.5	10.5
小売業	0.0	▲3.8	▲4.0	▲8.0	▲8.7	▲4.5
サービス業	0.0	7.9	▲8.8	▲8.6	▲2.8	▲8.6
建設業	18.8	12.5	15.0	6.3	▲6.3	▲11.8
製造業	3.0	2.9	3.1	3.3	0.0	0.0



短期資金借入難度(容易-困難)

	R4.10-12	R5.1-3	R5.4-6	R5.7-9	R5.10-12	R6.1-3 見通し
全体	4.0	9.3	1.6	4.1	4.0	1.6
卸売業	▲11.1	7.1	6.3	▲5.3	10.5	10.5
小売業	0.0	3.7	▲4.0	0.0	0.0	0.0
サービス業	6.1	13.2	▲8.8	8.6	8.3	0.0
建設業	18.8	12.5	20.0	6.3	0.0	▲5.9
製造業	6.3	8.8	3.2	6.9	0.0	3.3



その他業種別自由意見

	好転👍	悪化👎
卸売業		<ul style="list-style-type: none"> 仕入原価の高騰、一般住宅の着工件数減少。 大手エンジンの減産の影響は大きい。長引きそう。 低額品の物販が低調。高額品はまずまず。 仕入業者の実質倒産により、仕入業者の変更、仕入価格の上昇。
小売業	<ul style="list-style-type: none"> リニューアル(店舗)の効果が大きい。 12月の忘年会等に伴う需要は好転した。 コロナ禍のように来店が際立って少ないと感じることはない。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕入れ価格、燃料、運搬費の上昇。 店頭売り上げの減少。 2023年10月の商品価格値上げに伴い10月、11月は不調。 食料品や水道光熱費やガソリンなど生活必需品の価格が上がっているため、アパレル業界の現状は厳しいと言える。
サービス業	<ul style="list-style-type: none"> コロナ前と同等の稼働となっているが、まだ人の動きが以前のように読めない。 しかし、周辺の設備更新工事等により今期は堅調に推移した。 客単価がアップした。 例年年末はとても忙しく、先月までの落ち込みを挽回することができた。 売上は減少ぎみだが、少し落ち着いた中で、今後のことや働き方、待遇について見直す時間をもつことができています。 従業員全体のモチベーションが高く保っている。 問い合わせ等が少しずつではあるが増えてきてはいる。 	<ul style="list-style-type: none"> モノが高い上、以前に比べ同程度の備品でも壊れやすい、不備が目立つ等あり、結果さらにコストがかさむ。 得意先の注文激減。 制度改正があり更に単価が下がる予定。 他社は値上げしてくるが、業種柄値上げがしづらいので当社のコストだけ上がっていく。 消費の低迷。 社内の高齢化が進み、新しい人材を募集するが、応募がなく苦慮している。 乗務員不足。 働き方改革により、まかなえる仕事量が減少した。 これからは人材確保が大切となるが、人件費が大きいのしかかる。 急激な物価の高騰。
建設業	<ul style="list-style-type: none"> 経営努力。 企業は計画的な設備投資を行っており、引き合いもある。 活動範囲が拡大し、消耗度合いが増加したこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 住宅は建設資材の高騰による顧客離れが深刻である。 個人住宅は販売価格上昇のため動きは鈍い。加えて分譲宅地が多過ぎる。 原材料費が高騰し、価格転嫁が間にあわない。 賃金上げに対してそれに合うだけの利益が上らない。 原材料仕入価格上昇、人手不足による売上減少。 長浜市の公共事業が少なすぎる。
製造業	<ul style="list-style-type: none"> 季節を問わずイベントが活発になってきた。 価格転嫁が徐々に浸透して増収要因にはなっている。 原材料価格の値上げが無いわけではないが、落ち着いてきた。 外食産業からの受注が増加した。 昨年春より止まっていた自動車向けの新開発がようやく動き始め見積もりが頻繁に来るようになり、春以降に期待が持てるようになってきた。また、大手の業績が良いので今期中に予算を消化する必要があるために駆け込みの注文が続いており、3月いっぱい受注が積みあがっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ダイハツ不正により新車開発がストップしている影響が大きい。(7月～) 半導体・景気の落ち込み。 12月は仕事が3割減という状況。これから先の見通しも苦しい。非常に厳しい。 60~70%の価格転嫁であり利益率は悪化傾向が続いている。人件費の上昇も吸収しきれず増収ながら増益にはもう一段の企業努力が必要である。 2024年問題で輸送費が上がるのが懸念される。 中国経済減速の影響を受けている。 コンクリートの異常な値上がりが大きく影響している。 増収減益の基調は変わらず。 中国から仕事に戻ってきているが価格はほぼ中国価格のままなので、受注しても採算割れの可能性が大きい。しかし、国内の仕事が少ないため採算割れ覚悟で受注する会社が少なく、今後の価格低下が心配される。 価格のグローバル化は今後も続いていくのが懸念される。 原材料が上がったが、販売価格にすぐに反映されていない。人員が減り、生産量もコロナ前より少なくなっているため売上に影響している。問屋や百貨店の話だとお店にもよるが、高いものが売れず小売りはまだ厳しい状況とのこと。